

6. 角倉了以別邸跡

◇庭の基本情報

庭園名：高瀬川源流庭苑（第二無鄰菴）

形式：池泉回遊式庭園

面積：2600 m²

所有者：(当初) 角倉了以（1611年、慶長16年）

(改修) 山形有朋（1891年、明治24年），作庭：小川治兵衛

(現在) がんこグループ，料理屋「高瀬川二条苑」

◇概要

庭を流れる川は、東側の鴨川西岸を併走する「みそそぎ川」から取水し、西側の高瀬川へ流れ込む河川水が活かされている。

川には2枚の切り石の石橋が架かり、「生得の瀧」と呼ばれる1枚岩の滝が作られている。東山から高瀬川が滝のように流れるイメージで作られたと言われている。

また樹齢200年というムク、樹齢250年の紅梅、楓など多くの植栽がある。

庭内には、さざれ石、福がえるの岩、自然石を組み合わせた化け灯籠、日本一の大きな灯籠とされる御影石で作られた吾妻屋風灯籠が配置されている。その他、茶室や江戸時代初期に小堀遠州作庭と伝わる茶庭もある。



池泉回遊式庭園

◇歴史

1614年（慶長19年）に高瀬川の掘削に成功し、高瀬川舟運を管理した角倉了以が築いた別邸を、1889年（明治22年）第3代内閣総理大臣に就任した山県有朋は、1891年に舟運の便もいいこの地を取得し、地元長州にあった自邸の名前「無鄰菴」から「第二無鄰菴」と呼んでいたようである。

この頃、天才的庭師小川治兵衛の手が入り、自然度の高い池泉回遊式庭園となっている。

「第二無鄰菴」は、三菱の創設者のひとりで日本銀行総裁を務めた川田小一郎（男爵）、さらに西廻り舟運で富を築き近江麻糸紡織を創業した実業家阿部市太郎の手に渡っている。

現在は、がんこグループが営む料理屋「高瀬川二条苑」として利用されている。



山形有朋 第二無鄰菴 碑

◇参考資料

- 1) ニッポン旅マガジン：京都風光 <https://kyotofukoh.jp/report1050.html>
- 2) がんこ高瀬川二条苑：パンフレット